

### 3 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は、次の3つの経営理念を経営の基本とし、事業活動を展開しております。

「顧客に最高の価値とサービスを提供し社会に貢献する」

「最高への挑戦」

「企業の価値を高め社員と社会に幸福を」

#### (2) 目標とする経営指標

当社は、主な成長性、収益性の指標として、売上高、売上高営業利益率、及びROE/ROAを重視しております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略及び会社の対処すべき課題

当社グループでは、「事業規模の拡大」を中期事業計画の中核とし、大規模生産拠点の建設および生産設備の増強により、今後増大していくプリント配線板需要に対する供給体制の強化を図るとともに、開発力の強化により、高機能化、高密度化の流れを取り込み、今後期待される新規市場への積極的展開を図っております。

国内においては、開発部隊の増員により生産技術・商品開発力を強化する他、新規に参入するパッケージ基板ビジネスのため、高密度配線板の開発・量産をおこなう宮城工場(株式会社宮城メイコー)に隣接する土地と建物を取得いたしました。さらに、このほど譲り受けた日本ビクター株式会社サーキット事業部の人員と生産設備を各分野に投入して機能の強化を図ってまいります。

また海外においては、一昨年操業を開始した中国武漢工場(名幸電子(武漢)有限公司)第一工場の生産体制の強化をおこなうため拡張を進めております、また第二工場の建設も進めておりますが、こちらではビルドアップ基板等の高機能製品の生産も検討しております。さらに、ベトナムにも新工場を建設しており、リジッド基板の他、フレキシブル基板・実装ラインの導入も計画しております。

このように現在、規模と技術の両面から体制づくりを進めております。今後の経営環境につきましては、中長期的にはブラウン管型テレビから薄型テレビに代替が進む等のデジタル家電の持続的拡大等により市場は堅調に推移すると予想されますが、短期的には昨今の原油高をはじめとする各種原材料の高騰や米国のサブプライムローン問題に端を発する世界的な景気悪化の影響が懸念され、予断を許さない状況にあります。これに対して今後当社グループでは、各拠点を順調に稼働させて確固たる基盤を確立し、生産の効率化や信頼性という質的な向上を図るとともに「経費の圧縮、削減」に取り組むことで利益体質を強化してまいります。

販売につきましても、今期は初めて欧州に拠点を設けました。今後さらにネットワークの充実を図り、世界の様々なニーズに応えることで激化する競争に対応してまいります。

このように当社グループは、内部体質の強化と主力生産拠点の拡充、そして国内外の拠点間の連携による相乗効果を活用することで、事業の拡大と経営の安定化に取り組んでいく所存であります。

#### (4) 内部管理体制の整備・運用状況

内部管理体制の整備・運用状況は、「コーポレートガバナンスに関する報告書」にて記載しております。

また、環境を重視する経営を行い、「CSRレポート」にて活動状況等を記載する予定です。